

(素案)

第2次

山鹿市・和水町

定住自立圏共生ビジョン



令和6年●月
山鹿市 和水町

－ 目 次 －

1	定住自立圏及び圏域を形成する市町の名称及び期間	
	(1) 定住自立圏の名称	・ ・ ・ ・ ・ P. 1
	(2) 圏域を形成する市町の名称	・ ・ ・ ・ ・ P. 1
	(3) 共生ビジョンの期間	・ ・ ・ ・ ・ P. 1
2	圏域の概況	
	(1) 圏域の概況	・ ・ ・ ・ ・ P. 2
	(2) 都市機能の集積状況	・ ・ ・ ・ ・ P. 17
3	圏域の将来像	・ ・ ・ ・ ・ P. 24
4	定住自立圏形成協定に基づく具体的取組	・ ・ ・ ・ ・ P. 26
	(1) 生活機能の強化に係る政策分野	・ ・ ・ ・ ・ P. 28
	(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	・ ・ ・ ・ P. 42
	(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	・ ・ ・ ・ P. 48

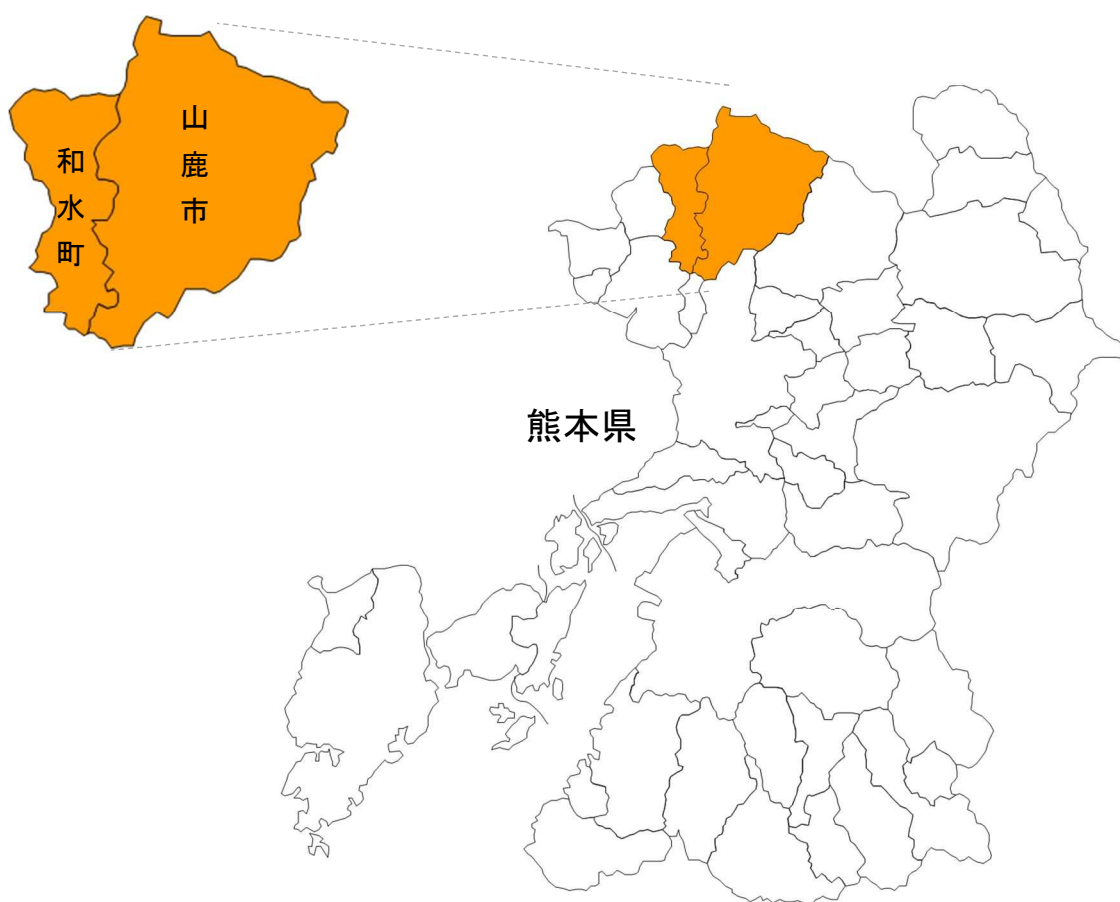
1 定住自立圏及び圏域を形成する市町の名称及び期間

(1) 定住自立圏の名称

山鹿市・和水町定住自立圏

(2) 圏域を形成する市町の名称

山鹿市、和水町



(3) 共生ビジョンの期間

本ビジョンの計画期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間とし、毎年度所要の見直しを行います。

2 圏域の概況

(1) 圏域の概況

① 人口推移

1) 人口構成とその推移

圏域全体及び両市町の人口構成をグラフで示したものを図1に、その根拠となる数値を表1に示します。

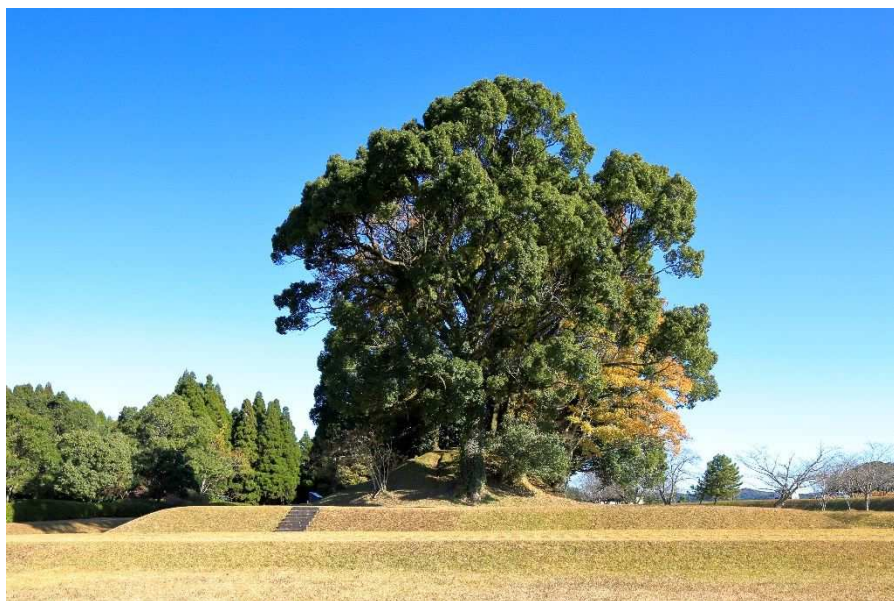
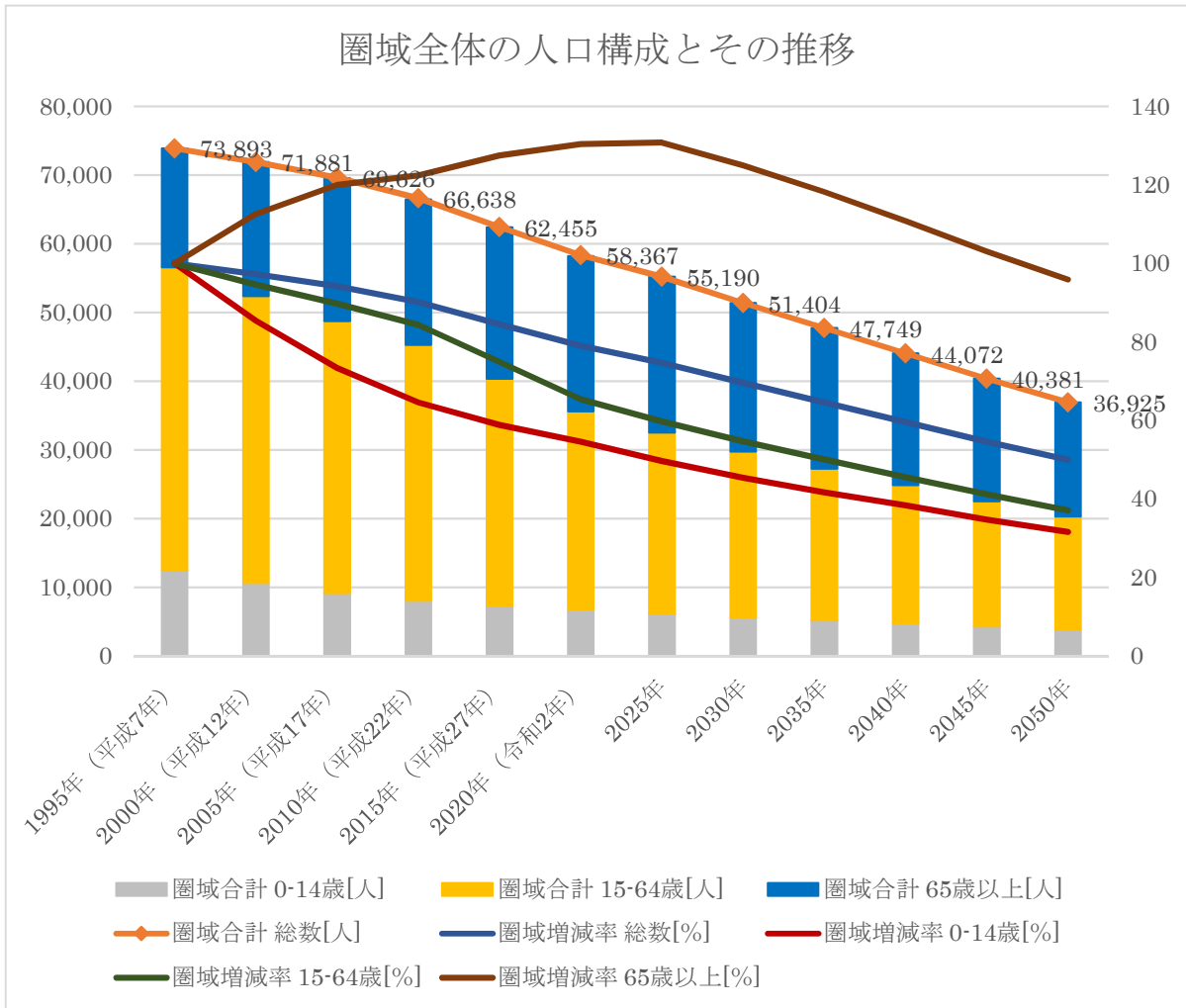
図1及び表1を見ると、圏域全体の総人口は、1995(平成7)年の73,893人が2020(令和2)年には58,367人と15,526人減少し、その減少率は21.0%となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所(以後、社人研)の最新の人口推計によると、人口減少は今後も続き、2050年には圏域全体で36,925人、1995(平成7)年比で50.0%減少するとされています。

また、高齢者(65歳以上)の人口構成については、2025年前後に人数、1995(平成7)年比の人口増加率ともにピークを迎え、2050年には16,602人と1995(平成7)年を下回る人口規模になるとされています。一方で、64歳以下の人口は減少を続け、2050年には14歳以下が3,942人、15歳以上64歳以下が16,381人となり、これは、1995(平成7)年比でそれぞれの人口が31.6%、37.1%まで低下することを意味します。

なお、2050年の人口構成比率は14歳以下が10.7%、15歳以上64歳以下が44.4%、65歳以上が44.9%になるとされています。1995(平成7)年の同比率がそれぞれ16.9%、59.7%、23.4%であったことから、人口減少と少子高齢化がより一層進行することが予測される中で、両市町が持つ資源や機能を活用しながら連携し、いかに暮らし続けたい圏域、暮らしてみたい圏域づくりを行うかが課題となります。



図 1： 圏域全体の人口構成とその推移(表 1 から作成)



国史跡 江田船山古墳

表 1：圏域全体及び両市町の人口構成とその推移

		実績値					
		1995年 平成7年	2000年 平成12年	2005年 平成17年	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2020年 令和2年
山鹿市	総数[人]	60,991	59,491	57,726	55,391	52,264	49,025
	0-14歳[人]	10,356	8,911	7,774	6,882	6,332	5,867
	15-64歳[人]	36,751	34,945	33,157	31,217	27,848	24,416
	65歳以上[人]	13,884	15,635	16,696	17,125	18,054	18,601
和水町	総数[人]	12,902	12,390	11,900	11,247	10,191	9,342
	0-14歳[人]	2,138	1,753	1,402	1,184	1,026	950
	15-64歳[人]	7,345	6,791	6,430	6,009	5,160	4,410
	65歳以上[人]	3,419	3,846	4,067	4,054	4,001	3,961
圏域合計	総数[人]	73,893	71,881	69,626	66,638	62,455	58,367
	0-14歳[人]	12,494	10,664	9,176	8,066	7,358	6,817
	15-64歳[人]	44,096	41,736	39,587	37,226	33,008	28,826
	65歳以上[人]	17,303	19,481	20,763	21,179	22,055	22,562
圏域増減率	総数[%]	100.0	97.3	94.2	90.2	84.5	79.0
	0-14歳[%]	100.0	85.4	73.4	64.6	58.9	54.6
	15-64歳[%]	100.0	94.6	89.8	84.4	74.9	65.4
	65歳以上[%]	100.0	112.6	120.0	122.4	127.5	130.4

		推計値					
		2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
山鹿市	総数[人]	45,972	42,834	39,776	36,690	33,609	30,738
	0-14歳[人]	5,413	4,942	4,526	4,161	3,781	3,443
	15-64歳[人]	21,988	20,174	18,431	16,686	15,060	13,532
	65歳以上[人]	18,571	17,718	16,819	15,843	14,768	13,763
和水町	総数[人]	9,218	8,570	7,973	7,382	6,772	6,187
	0-14歳[人]	795	725	682	632	569	499
	15-64歳[人]	4,360	3,950	3,658	3,415	3,128	2,849
	65歳以上[人]	4,063	3,895	3,633	3,335	3,075	2,839
圏域合計	総数[人]	55,190	51,404	47,749	44,072	40,381	36,925
	0-14歳[人]	6,208	5,667	5,208	4,793	4,350	3,942
	15-64歳[人]	26,348	24,124	22,089	20,101	18,188	16,381
	65歳以上[人]	22,634	21,613	20,452	19,178	17,843	16,602
圏域増減率	総数[%]	74.7	69.6	64.6	59.6	54.6	50.0
	0-14歳[%]	49.7	45.4	41.7	38.4	34.8	31.6
	15-64歳[%]	59.8	54.7	50.1	45.6	41.2	37.1
	65歳以上[%]	130.8	124.9	118.2	110.8	103.1	95.9

※出典(実績値)：2020(令和2)年「国勢調査」

※出典(推計値)：社人研「人口推計」

2) 人口動態とその推移

圏域全体及び両市町の人口動態とその推移をグラフで示したものを図2に、その根拠となる数値を表2に示します。

図2及び表2を見ると、圏域における過去5年間の人口は毎年減少を続けており、自然増減及び社会増減のいずれの要因においても、両市町とも減少を続けています。

また、人口減少と少子高齢化が進行することで、自然増減の要素である、出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向となり、「少産多死」型がより顕著になることが推定されます。

図2：圏域全体の人口動態とその推移(表2から作成)



表 2 : 圏域全体及び両市町の人口動態とその推移

※単位：いずれも[人]

		2018年 (H30年)	2019年 (R元年)	2020年 (R2年)	2021年 (R3年)	2022年 (R4年)
山鹿市	人口動態	▲ 838	▲ 616	▲ 739	▲ 767	▲ 624
	自然増減	▲ 528	▲ 478	▲ 463	▲ 504	▲ 527
	出生数	337	324	339	306	293
	死亡数	865	802	802	810	820
	社会増減	▲ 310	▲ 138	▲ 276	▲ 263	▲ 97
	転入者数	1,431	1,485	1,415	1,275	1,375
	転出者数	1,741	1,623	1,691	1,538	1,472
和水町	人口動態	▲ 245	▲ 204	▲ 192	▲ 147	▲ 203
	自然増減	▲ 158	▲ 149	▲ 139	▲ 138	▲ 161
	出生数	57	41	47	42	55
	死亡数	215	190	186	180	216
	社会増減	▲ 87	▲ 55	▲ 53	▲ 9	▲ 42
	転入者数	235	225	244	242	251
	転出者数	322	280	297	251	293
圏域 合計	人口動態	▲ 1,083	▲ 820	▲ 931	▲ 914	▲ 827
	自然増減	▲ 686	▲ 627	▲ 602	▲ 642	▲ 688
	出生数	394	365	386	348	348
	死亡数	1,080	992	988	990	1,036
	社会増減	▲ 397	▲ 193	▲ 329	▲ 272	▲ 139
	転入者数	1,666	1,710	1,659	1,517	1,626
	転出者数	2,063	1,903	1,988	1,789	1,765

※出典：熊本県「人口と世帯数」



山鹿市の花「つつじ」



和水町の花「ひまわり」

3) 世帯数の推移

圏域全体及び両市町の世帯数の推移をグラフで示したものを図3に、その根拠となる数値を表3に示します。

圏域における世帯数は2018(平成30)年の22,894世帯が2022(令和4)年でも22,532世帯と5年間で1.6%の減少にとどまっているのに対して、人口は59,950人が56,626人に5.5%減少しています。結果として、1世帯当たりの人数は2.62人から2.51人へと減少しており、単身世帯や核家族の増加、特に前述の人口構成の推移を考慮すると、高齢者の単身、夫婦のみ世帯が多くなっていることが推定されます。

図3：圏域全体の世帯数の推移(表3から作成)

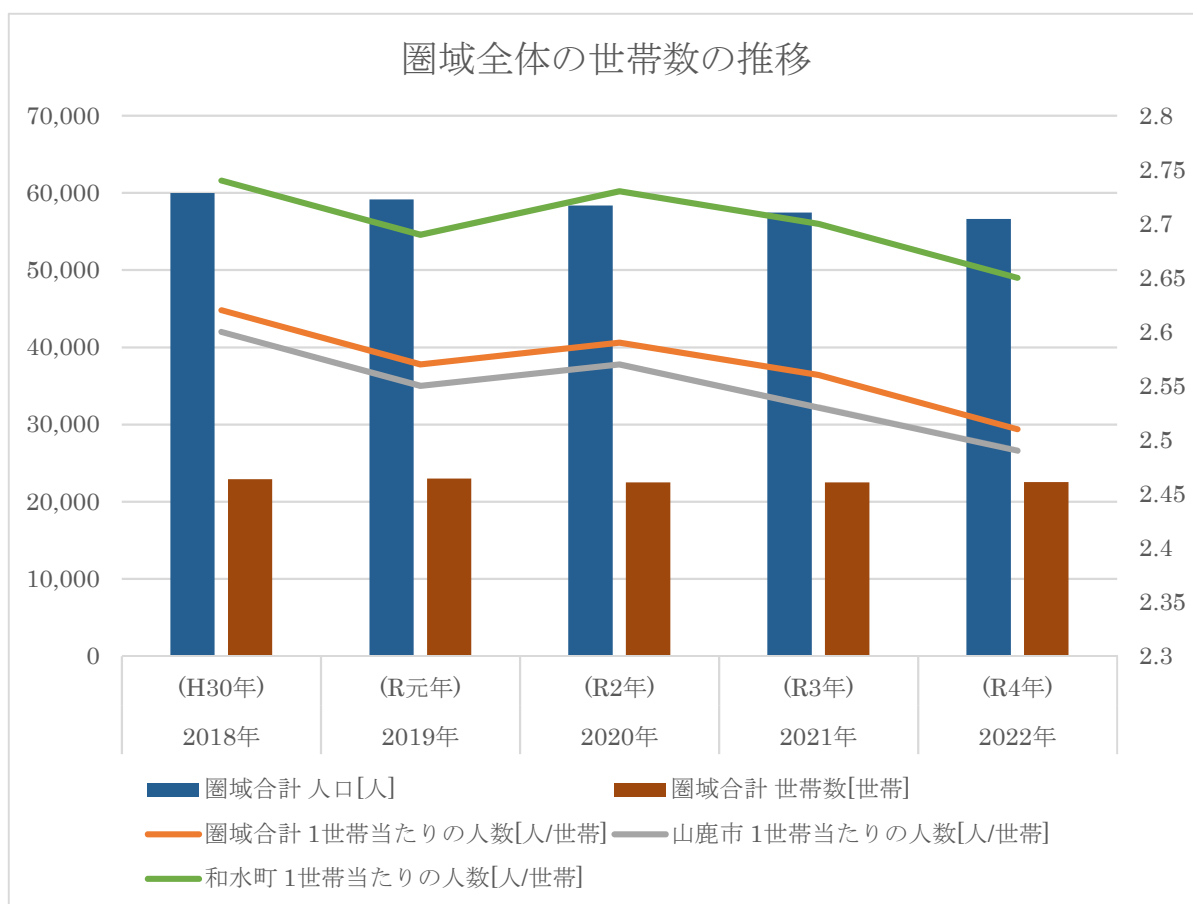


表 3：圏域全体及び両市町の世帯数の推移

		2018年 (H30年)	2019年 (R元年)	2020年 (R2年)	2021年 (R3年)	2022年 (R4年)
山鹿市	人口[人]	50,399	49,783	49,025	48,258	47,634
	世帯数[世帯]	19,411	19,523	19,085	19,072	19,144
	1世帯当たりの 人数[人/世帯]	2.60	2.55	2.57	2.53	2.49
和水町	人口[人]	9,551	9,347	9,342	9,195	8,992
	世帯数[世帯]	3,483	3,475	3,416	3,408	3,388
	1世帯当たりの 人数[人/世帯]	2.74	2.69	2.73	2.70	2.65
圏域 合計	人口[人]	59,950	59,130	58,367	57,453	56,626
	世帯数[世帯]	22,894	22,998	22,501	22,480	22,532
	1世帯当たりの 人数[人/世帯]	2.62	2.57	2.59	2.56	2.51

※出典：熊本県「人口と世帯数」



八千代座イメージキャラクター「チヨマツ」



和水町マスコットキャラクター「なごみん」

② 産業

1) 就業人口

圏域全体及び両市町の産業別就業人口を表4に示します。

2020（令和2）年の国勢調査によると、就業者数は圏域全体で28,985人であり、産業区分ごとに見ると、第3次産業が最も高く57.2%、次いで第2次産業が26.0%、第1次産業が16.0%となっています。熊本県の構成比率と比較して、第1次産業、第2次産業への就業比率が高い圏域であると言えます。

表 4： 圏域全体及び両市町の産業別就業人口

	就業者数			産業別比率			
	第1次産業	第2次産業	第3次産業	第1次産業	第2次産業	第3次産業	
山鹿市[人]	24,382	3,761	6,324	14,084	15.4%	25.9%	57.8%
和水町[人]	4,603	875	1,210	2,509	19.0%	26.3%	54.5%
圏域合計 [人]	28,985	4,636	7,534	16,593	16.0%	26.0%	57.2%
熊本県[人]	819,259	71,768	169,965	560,851	8.8%	20.7%	68.5%
圏域の 県内シェア	3.5%	6.5%	4.4%	3.0%			

※出典：2020（令和2）年「国勢調査」

※産業大分類「分類不能の産業」を除いて算出するため、合計は一致しない場合がある



2) 市町内総生産と市町民所得

圏域全体及び両市町の産業別総生産額と市町民所得を表5に示します。両市町の市町内総生産額はそれぞれ、142,404百万円、31,941百万円です。その構成比を見ると、山鹿市は第3次産業の生産比率が高く、和水町は第2次産業の生産比率が高くなっています。熊本県市町村全体の構成比率と比較して、第1次産業、第2次産業の生産比率が高い圏域であると言えます。

なお、2020（令和2）年度の経済成長率は熊本県市町村全体が2.8%、山鹿市が7.6%のマイナス成長であったことに比べ、和水町は3.2%のプラス成長となっています。また、圏域全体の一人当たりの市町民所得は2,124千円であり、熊本県市町村全体の2,498千円と比較して、85.0%程度となっています。

表 5： 圏域全体及び両市町の産業別総生産額と市町民所得

	実数[百万円]				経済 成長率 [%]	構成比[%]			一人 当たり 市町民 所得 [千円]
	総額	関税等加除前				関税等加除前			
		第1次 産業	第2次 産業	第3次 産業		第1次 産業	第2次 産業	第3次 産業	
山鹿市	142,404	9,341	43,292	88,724	▲7.6	6.6	30.6	62.8	2,119
和水町	31,941	3,140	15,190	13,376	3.2	9.9	47.9	42.2	2,146
圏域 合計	174,345	12,481	58,482	102,100		7.2	33.8	59.0	2,124
県内市 町村計	6,105,086	177,898	1,725,587	4,156,698	▲2.8	2.9	28.5	68.6	2,498

※出典：熊本県「令和2年度市町村民経済計算」

※産業別の金額は関税等加除前の額であるため、その合計は総額と一致しない



山鹿市・和水町の特産品（栗、タケノコ、山太郎ガネ）

3) 商工業

圏域全体及び両市町の商工業の概況について、製造業を表6に、卸売業を表7に、小売業を表8に示します。

表 6 : 製造業の概況

	事業所数 [社]	従業者数 [人]	年間製造品出荷額 [百万円]
山鹿市	88	2,998	67,040
和水町	25	959	24,402
圏域全体	113	3,957	91,442

※出典：2021(令和3)年「経済センサス活動調査」

表 7 : 卸売業の概況

	事業所数 [社]	従業者数 [人]	年間商品販売額 [百万円]
山鹿市	66	353	12,881
和水町	16	148	3,119
圏域全体	82	501	16,000

※出典：2021(令和3)年「経済センサス活動調査」

表 8 : 小売業の概況

	事業所数 [社]	従業者数 [人]	年間商品販売額 [百万円]
山鹿市	421	2,565	52,082
和水町	83	363	4,018
圏域全体	504	2,928	56,100

※出典：2021(令和3)年「経済センサス活動調査」



納豆



釣り竿



ワイン



日本酒

4) 観光

圏域全体及び両市町の観光客数を表9に示します。

2022(令和4)年の圏域全体における総入込客数は3,353,926人で、日帰り客が3,090,988人、宿泊客が262,938人であり、総入込客数に占める割合は日帰り客が92.2%、宿泊客が7.8%です。また、宿泊客のうち外国人は98人であり、宿泊客に占める割合は0.1%以下となっています。

今後は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行やTSMC進出に伴う海外直行の路線数の増加により、外国人を含む観光客の増加が見込まれます。

表9：圏域全体及び両市町の観光客数

※単位：[人]

		2021年(R3年)	2022年(R4年)
山鹿市	総入込客数	2,750,148	2,781,073
	日帰り客	2,591,004	2,548,777
	県内客	1,585,262	1,629,534
	県外客	1,005,742	919,243
	宿泊客	159,144	232,296
	県内客	55,572	72,161
	県外客	103,572	160,135
	うち外国人	4	94
和水町	総入込客数	526,713	572,853
	日帰り客	500,948	542,211
	県内客	395,676	388,978
	県外客	105,272	153,233
	宿泊客	25,765	30,642
	県内客	9,975	29,225
	県外客	15,790	1,417
	うち外国人	115	4
圏域合計	総入込客数	3,276,861	3,353,926
	日帰り客	3,091,952	3,090,988
	県内客	1,980,938	2,018,512
	県外客	1,111,014	1,072,476
	宿泊客	184,909	262,938
	県内客	65,547	101,386
	県外客	119,362	161,552
	うち外国人	119	98

※出典：熊本県「熊本県観光統計」

③ 通勤通学状況

両市町を中心とする主要関係地域との通勤通学状況を図4に示します。

2020(令和2)年の国勢調査によると、山鹿市の通勤通学者は26,247人で総人口の53.5%、そのうち市内の事業所又学校へ通勤通学している者の人数は18,292人であり、総人口の37.3%となっています。市外への通勤通学者は7,791人ですが、主要な通勤通学先としては熊本市2,628人、菊池市1,972人、玉名市592人、合志市479人、和水町465人、福岡市54人、福岡市以外の福岡県内市町村262人です。

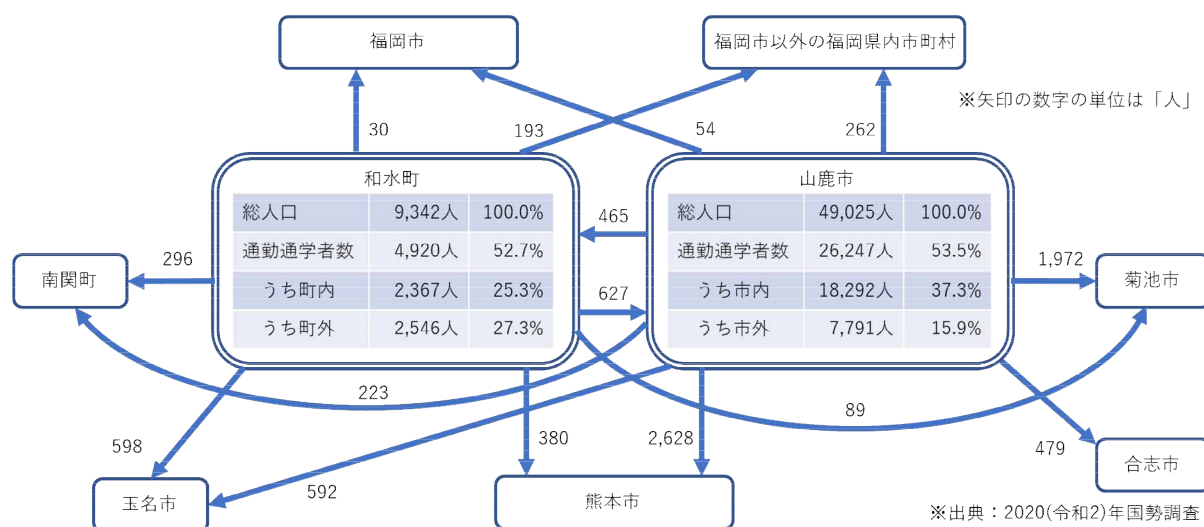
一方、和水町の通勤通学者は4,920人で総人口の52.7%、そのうち町内の事業所又は学校へ通勤通学している者の人数は2,367人であり、総人口の25.3%となっています。町外への通勤通学者は2,546人ですが、主要な通勤通学先としては山鹿市627人、玉名市598人、熊本市380人、南関町296人、菊池市89人、福岡市30人、福岡市以外の福岡県内市町村193人です。

通勤通学者のうち、市町外への通勤通学者の比率は、山鹿市は29.7%であるのに対して、和水町は51.7%と大きいことが特徴に挙げられます。

なお、圏域の通勤通学者は31,167人で総人口の53.4%、そのうち圏域内の事業所又は学校へ通勤通学している者の人数は21,751人であり、総人口の37.3%となっています。圏域外への通勤通学者は9,245人であり、総人口の15.8%となっています。

本圏域の安定的な発展のためには、図4の状況を考慮した公共交通網の維持、整備が重要となります。

図4：両市町を中心とする主要関係地域との通勤通学状況



④ 構成市町の概要

1) (ア) 主要項目一覧

表 10：両市町の主要項目一覧

	山鹿市	和水町	備考(出典等)
人口	47,634 人	8,992 人	表 3 2022(令和4)年
世帯数	19,144 世帯	3,388 世帯	同上
面積	299.69 km ²	98.78 km ²	国土地理院 2023(令和5)年10月1日現在
ホームページ	https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/	https://www.town.nagami.lg.jp/	
沿革	2005(平成17)年1月15日 山鹿市・鹿北町・菊鹿町・鹿本町・鹿央町合併により「山鹿市」誕生	2006(平成18)年3月1日 菊水町・三加和町合併により「和水町」誕生	
市町長	早田 順一	石原 佳幸	2023(令和5)年12月1日現在
議会定数	20 人	12 人	同上
職員数	746 人	247 人	熊本県市町村要覧 2022(令和4)年4月1日現在
人口千人当たり職員数	14.9 人	25.9 人	同上
財政(普通会計、歳出)	314.80 億円	85.63 億円	令和4年度決算



平成 29 年に日本遺産に認定された「菊池川流域の歴史ストーリー」

2) (イ) 山鹿市の概要

● 位置と地勢、市の特徴

山鹿市は、熊本県の北の玄関口としての役割を果たしております。西部は和水町と接し、市の北部は緑豊かな山林、市中央部を東から西へ菊池川が貫流しています。南部は菊池川流域を中心とした田園地帯が広がり、市を南北に縦断する国道3号と東西に延びる国道325号が交差する位置を中心に市街地をなしております。

市街地の中心部を通る豊前街道沿いには、明治時代の芝居小屋「八千代座」や九州最大級の木造大衆浴場「さくら湯」など歴史的価値を有する施設が点在しています。

また、市内には5つの温泉地「やまが温泉郷」や、日本の伝統的工芸品である山鹿灯籠、近年多くの賞を受賞している菊鹿ワインを製造・販売する菊鹿ワイナリー、西日本一の生産量を誇る「やまが和栗」をはじめとする豊富な農産物など、数多くの観光資源を有することも市の大きな特徴となっています。

九州自動車道菊水インターチェンジや植木インターチェンジから約20分の距離で、九州各県からのアクセスの良い地域となっております。

● 目指す将来像

➤ 人輝き飛躍する都市(まち) やまが

- ◇ 人と自然…豊かな自然や環境と調和したまちづくりを目指します。
- ◇ 人と産業…地域資源を生かした戦略的な産業振興を目指します。
- ◇ 人と歴史文化…固有の歴史や伝統を大切に保存・継承・活用するとともに、創造性に富んだ文化が息づくまちづくりを目指します。



国指定重要文化財「八千代座」

3) (ウ) 和水町の概要

- 位置と地勢、町の特徴

熊本県の北部に位置し、東部を山鹿市と接する和水町は、自然豊かなのでどかな農村が広がり、町を東から南西へ菊池川が貫流しています。また町中央部を国道443号が横断し、町本庁舎がある南部は和水町立病院などの都市施設も集まっています。

江田船山古墳、田中城跡や豊前街道に代表される数多くの歴史的資源にも恵まれ、産業面では、米をはじめ、野菜や果実等の農畜産物の生産が盛んであり、電器、精密機械などの企業を誘致して、農工併進による発展を遂げてきました。

加えて、九州自動車道菊水インターチェンジを有し、福岡都市圏まで60分という交通の便に恵まれ、周辺の中小都市へのアクセス条件も良い町です。

- 目指す将来像

- 笑顔輝き 魅力あふれる和水町

- ◇ 安心・安全に暮らせるまち
- ◇ 住みたくなる魅力あるまち
- ◇ 活気あふれる個性豊かなまち
- ◇ 未来を担う人が育つまち
- ◇ 便利な生活と豊かな自然が共存するまち
- ◇ 地域と共に歩む「協働」のまち



和水江田川のカヌー体験

(2) 都市機能の集積状況

① 行政機関

圏域内にある国や県の行政機関は表11のとおりです。

表 11：圏域内の国や県の行政機関の設置状況

所在地 区分	山鹿市	和水町
国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本地方法務局山鹿支局 ・ 熊本地方検察庁山鹿支部 ・ 熊本地方裁判所山鹿支部 ・ 熊本家庭裁判所山鹿支部 ・ 山鹿税務署 ・ 九州地方整備局熊本河川国道事務所 山鹿維持出張所 ・ 九州地方整備局菊池川河川事務所 山鹿出張所 ・ 九州地方整備局菊池川河川事務所 ・ 自衛隊熊本地方協力本部山鹿地域事務所 ・ 熊本森林管理署内田森林事務所 	
県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本県県北広域本部鹿本地域振興局 ・ 熊本県山鹿保健所 ・ 熊本県立教育センター ・ 山鹿警察署 ・ 城北家畜保健衛生所 ・ 熊本県立装飾古墳館 ・ 熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園 鞠智城・温故創生館 ・ 熊本県立かもと稲田支援学校 ・ 熊本県立鹿本高等学校 ・ 熊本県立鹿本商工高等学校 ・ 熊本県立鹿本農業高等学校 	

② 医療機関

圏域内の医療機関の集積状況を表12に、またその一例として、2022(令和4)年度の災害拠点病院に指定されている山鹿市民医療センターの利用状況を表13に示します。

山鹿市には災害拠点病院である山鹿市民医療センターをはじめ、救急医療病院4施設、和水町には救急医療病院である国民健康保険和水町立病院が整備され、圏域全体では一般診療所、歯科診療所も一定程度確保されています。

表 12 : 圏域内の医療機関の集積状況

	病院				一般診療所	歯科診療所
	施設数	うち災害拠点病院数	うち救急医療病院数	病床数	施設数	施設数
山鹿市	6	1	4	840	45	24
和水町	1	-	1	91	6	4
圏域合計	7	1	5	931	51	28

※出典：熊本県「令和元年度 健康福祉行政の概要（別冊資料）」

表 13 : 山鹿市民医療センターの利用状況(2022(令和4)年度)

利用区分	利用者総数 [人]	山鹿市		和水町		その他市町村	
		利用者 [人]	割合	利用者 [人]	割合	利用者 [人]	割合
入院	2,378	1,937	81.5%	159	6.7%	282	11.9%
外来	11,948	10,016	83.8%	726	6.1%	1,206	10.1%
病院の概要	<p>病床数：一般病床 197 床、感染症病床 4 床 合計 201 床</p> <p>診療科目：一般内科、呼吸器内科、循環器内科、内分泌・代謝科内科、消化器内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、産婦人科、リハビリテーション科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、総合診療科、麻酔科、放射線科</p> <p>医療機関指定：熊本県指定がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、開放型病院、救急告示病院、病院群輪番制病院、災害拠点病院、第二類感染症指定医療機関、臨床研修指定病院（協力型）、DMAT 指定病院、労災指定病院</p>						

③ 保健福祉施設等

圏域内の保健福祉施設等の集積状況を表14に示します。

児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉等の施設は山鹿市を中心として和水町にも一定程度存在し、圏域の福祉サービス基盤を構成しています。

表 14：圏域の保健福祉施設等集積状況

分野	施設区分	施設数	
		山鹿市	和水町
児童福祉施設	保育所(幼保連携型認定こども園を含む)	22	4
	児童館	4	-
	子育て支援センター	5	1
	病後児保育室	3	1
	子育てひろば	-	1
高齢者福祉施設	養護老人ホーム	2	-
	軽費老人ホーム	1	-
	有料老人ホーム(住宅型)	9	4
	サービス付き高齢者住宅	3	1
	高齢者専用賃貸住宅	1	-
	老人福祉センター	2	1
	包括支援センター(指定介護予防支援事業)	1	1
	シルバー人材センター	1	1
障がい者福祉施設	指定障害者支援施設	2	1
	共同生活援助(グループホーム)	7	3
	地域活動支援センター	5	-
	特定相談支援・障害児相談事業所	7	3
	障害福祉サービス通所事業所	19	2
	指定障害児通所支援事業所	14	2
介護保険施設	介護老人保健施設	3	1
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	6	2
	地域密着型特別養護老人ホーム	1	-
	介護医療院	1	-
介護サービス事業所(居宅)	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	9	2
介護サービス事業所(在宅)	小規模多機能型居宅介護	11	-
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	-
	訪問看護	9	1
	訪問介護	17	4
	訪問リハビリテーション	5	-

	通所介護(デイサービス)	14	7
	地域密着型通所介護(地域密着型デイサービス)	8	1
	認知症対応型通所介護	3	-
	通所リハビリテーション	9	1
	居宅介護支援事業所	23	4
介護予防拠点	介護予防拠点	10	56

④ 教育機関

圏域内の教育機関の集積状況を表15に示します。

圏域全体では、2つの幼稚園、2つの幼保連携型認定こども園、12の小学校、7つの中学校、4つの高等学校、1つの特別支援学校、1つの専修学校、1つの各種学校が整備されています。しかしながら、圏域全体を取り巻く人口減少の影響は大きく、統廃合、定員割れの状況が続いています。

表 15：圏域の教育機関集積状況

区分		山鹿市	和水町	圏域合計
幼稚園	施設数	2	-	2
	在学者数	68	-	68
幼保連携型認定こども園	施設数	2	-	2
	在学者数	176	-	176
小学校	施設数	10	2	12
	在学者数	2,487	442	2,929
中学校	施設数	5	2	7
	在学者数	1,239	196	1,435
高等学校	施設数	4	-	4
	在学者数	1,697	-	1,697
特別支援学校	施設数	1	-	1
	在学者数	68	-	68
専修学校	施設数	1	-	1
	在学者数	49	-	49
各種学校	施設数	1	-	1
	在学者数	11	-	11
合計	施設数	26	4	30
	在学者数	5,795	638	6,433

※出典：熊本県「令和4年度 学校基本調査」

⑤ 商業施設

圏域内の商業施設の集積状況を表16に示します。

圏域の売場面積1,000㎡以上の大型商業施設は山鹿市に集積しており、圏域内の経済活動の一部を担っています。

表 16：圏域の商業施設(大型店)の集積状況

所在地 区分	山鹿市	和水町
大型店 (売場面積： 1,000㎡以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・アタックス鹿本店 ・ケースデンキ山鹿店 ・グッデイ山鹿店 ・コメリホームセンター山鹿店 ・ザ・ビック山鹿店 ・スーパーセンタートライアル山鹿店 ・スーパーミカエル ・ダイレックス東山鹿店 ・ディスカウントドラッグコスモス鹿本店 ・ディスカウントドラッグコスモス桜町店 ・ディスカウントドラッグコスモス山鹿店 ・テックランド山鹿店 ・ドラッグストアモリ山鹿店 ・ミスターマックス ・ニトリ山鹿店 ・BOOKS あんとく山鹿店 ・ベスト電器熊本山鹿店 ・ホームプラザナフコ鹿本店 ・ホームプラザナフコ山鹿店 ・ゆめマート山鹿店 ・ゆめマート東山鹿店 	<ul style="list-style-type: none"> ・コメリハード&グリーン菊水店

⑥ その他の施設

圏域内のその他施設の集積状況を表17に示します。そのうち、2022(令和4)年度の山鹿市立図書館の利用状況を表18に、山鹿市薄尾斎場の利用状況を表19に示します。

表 17：圏域のその他の施設の集積状況

分野	施設区分	山鹿市	和水町
文化・スポーツ	文化施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八千代座 ・ 山鹿灯籠民芸館 ・ 山鹿市民交流センター ・ 県立装飾古墳館 ・ 県立装飾古墳館分館 ・ 歴史公園鞠智城・温故創生館 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和水町みかわ手漉き和紙の館
	博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山鹿市立博物館 ・ 山鹿市出土文化財管理センター ・ 清浦記念館 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和水町歴史民俗資料館
	図書館(室)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひだまり図書館 ・ こもれび図書館 ・ 鹿北図書室 ・ 菊鹿図書室 ・ 鹿央図書室 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和水町中央公民館図書室 ・ 和水町三加和公民館図書室
	スポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山鹿市民スポーツセンター ・ カルチャースポーツセンター(総合体育館) ・ 山鹿市民球場 ・ 山鹿市民武道館 ・ 山鹿市民プール ・ 山鹿市鹿北体育センター ・ 山鹿市城北体育館 ・ 山鹿市鹿本体育館 ・ 山鹿市あんずの丘多目的体育館 ・ 山鹿市菊鹿多目的研修集会施設 ・ 山鹿市鹿北グラウンド ・ 山鹿市城北運動場 ・ 山鹿市菊鹿運動広場 ・ 山鹿市鹿本グラウンド ・ 山鹿市鹿央体育館 ・ 山鹿市鹿央運動公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和水町体育館 ・ 和水町スカイドーム 2000 ・ 和水町弓道場 ・ 和水町テニスコート ・ 和水町総合グラウンド ・ 和水町三加和グラウンド ・ 和水町春富グラウンド ・ 和水町多目的広場

		・ 山鹿市鹿本柔剣道場 ・ 山鹿市山内体育館	
交通	バス センター	・ 山鹿バスセンター	
その他	斎場 (火葬場)	・ 山鹿市薄尾斎場	

表 18：山鹿市立図書館の利用状況(2022(令和4)年度)

区分	総数 [人]	山鹿市		和水町		その他市町村	
		利用者 [人]	割合 [%]	利用者 [人]	割合 [%]	利用者 [人]	割合 [%]
登録者	28,050	27,083	96.6	434	1.5	533	1.9

※山鹿市立図書館（ひだまり図書館、こもれび図書館、鹿北図書室、菊鹿図書室、鹿中央図書室）

表 19：山鹿市薄尾斎場の利用状況(2022(令和4)年度)

利用者 総数 [人]	山鹿市		和水町		その他市町村	
	利用者 [人]	割合 [%]	利用者 [人]	割合 [%]	利用者 [人]	割合 [%]
890	850	95.5	2	0.2	38	4.3



日本棚田百選「番所の棚田」

3 圏域の将来像

我が国の総人口は、今後急速に減少することが見込まれており、人口減少社会に突入しています。特に地方圏においては少子高齢化の進行に伴い生産年齢人口が減少することによる地域経済の縮退やコミュニティー力の低下など、社会構造そのものが弱体化していく危機に直面しています。

また、コロナ禍を契機としたデジタル活用の拡大や国の「デジタル田園都市国家構想」等によるデジタル化社会への変化が急速に進展しており、その対応が地方にも求められています。

さらには、住民や企業等の生活圏・経済活動圏は市町村の枠を越えて拡大し、行政に対するニーズも多様化・高度化・複雑化しているため、これからは行政サービスの在り方自体を広域的視点で時代に合ったものに変えていくことが求められています。

このような中、山鹿市と和水町で構成する本圏域は、古くから歴史・文化面や生活面において結びつきの強い土地柄であることも手伝って、住民の意識にも親近感が醸成されやすい素地があります。

そのため、この関係をさらに強くし、それぞれが有する都市機能や生活機能、地域資源を有効活用することで、圏域住民の生活の質を高める取組を進めていきます。

具体的には、以下の2つを圏域の将来像として定め、必要な取組を推進することとします。

安全・安心かつ快適な暮らしを補完しあう圏域

医療予防体制の強化や子育て支援、福祉・介護サービスの向上、地域公共交通体制の維持・確保といった暮らしに欠かせない生活基盤の充実を図り、子どもから高齢者まで全ての住民が暮らし続けたいと思える圏域を目指します。

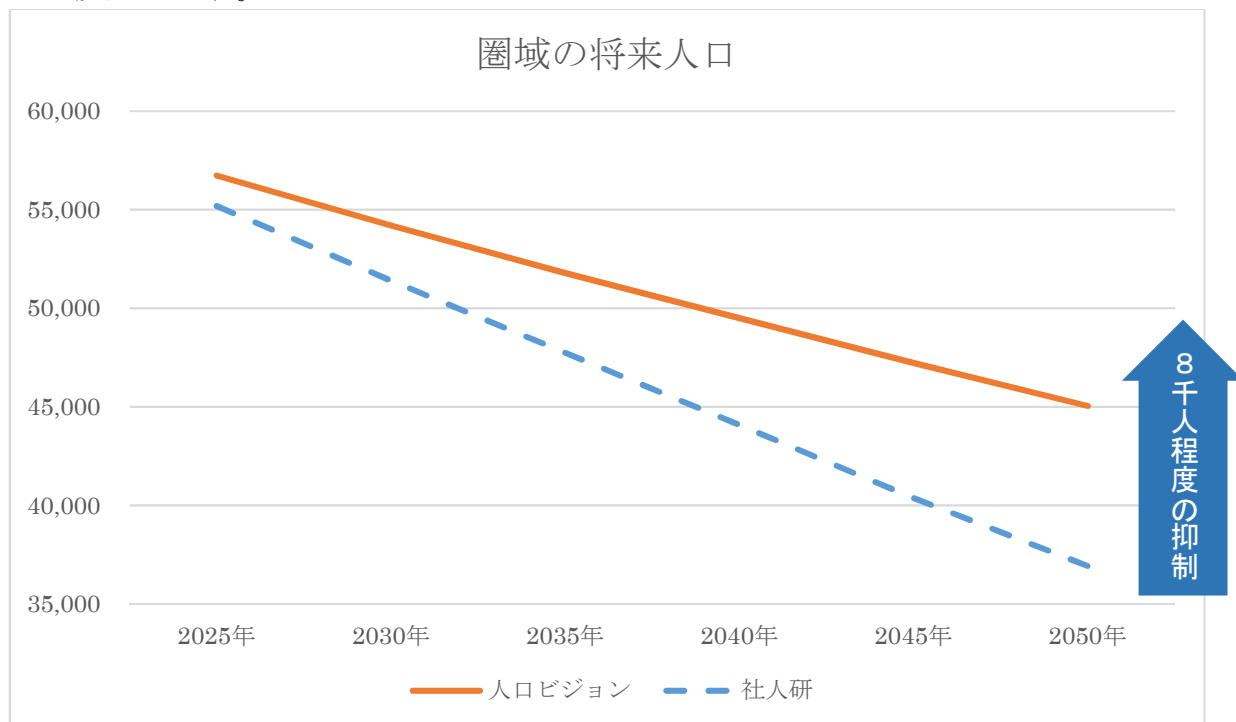
地域資源が響きあい新たな賑わいを創出する圏域

農産物、良質な温泉、装飾古墳など、圏域全体に存在する地域資源を更に磨き上げ、情報発信や人材育成を図ることより、これまで以上に圏域の付加価値を高め、新たな賑わいの創出による地域経済の活性化や交流人口の増加、圏域内への移住・定住へとつなげ、誰もが暮らしてみたいと思える魅力ある圏域を目指します。

山鹿市と和水町では、これまでの人口動態等を分析し、将来の人口を展望した人口ビジョンを両市町ごとに策定し、2019(令和元)年度に改訂しました。

また、両市町ごとに策定した「まち・ひと・しごと総合戦略」においても、近隣自治体との連携による広域的なまちづくりについても明記しており、人口ビジョンもこうした取組を進めることを念頭に展望したものです。

これを踏まえて、両市町の人口ビジョンの将来人口の合計を、圏域の将来人口として設定します。



	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
人口ビジョン計	56,734人	54,192人	51,795人	49,494人	47,230人	45,044人
社人研推計	55,190人	51,404人	47,749人	44,072人	40,381人	36,925人

■人口ビジョンの内訳

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
山鹿市	47,211人	45,178人	43,244人	41,404人	39,620人	37,890人
和水町	9,523人	9,014人	8,551人	8,090人	7,610人	7,154人
合計	56,734人	54,192人	51,795人	49,494人	47,230人	45,044人

4 定住自立圏形成協定に基づく具体的取組

圏域の将来像を実現するための具体的取組として、政策分野ごとに以下の事業を実施します。

分野	項目	事業名
(1) 生活機能の強化に係る政策分野		
①医療	生活習慣病等の予防と地域医療の連携	1 生活習慣病重症化予防啓発事業
		2 合同研修会を通じた医療機関との連携強化
②福祉	子育て環境の充実	3 保育所広域入所の連携強化
		4 合同会議の開催及び子育て支援施設の相互利用の強化
	5 放課後児童支援員研修	
	地域包括ケアの充実	6 地域包括ケアシステム構築に向けた市町連携事業
		7 買い物・見守り等支援事業
③教育及び文化	図書館等の相互利用	8 図書館等の相互利用事業
	文化財を活用した普及啓発	9 圏域文化財の普及活用事業
④産業振興	新規就農者への支援	10 新規就農者への支援
	地場企業への就労支援	11 圏域地場企業の就労支援事業
	観光における受入態勢の強化	12 インバウンド誘客促進に向けた受入対策事業
⑤環境	環境保全活動の推進	13 環境保全に向けた巡回、啓発運動
⑥その他	伝染病等への対応における	14 伝染病発生時における対策連携
(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野		
①地域公共交通	公共交通の利便性向上及び活性化	15 路線バス維持のための運行補助事業
		16 地域公共交通の利用促進と利便性向上
②地産地消	地域産物の認知度向上及び地産地消の推進	17 地域産物の認知度向上及び消費拡大
③交流・移住促進	移住定住の促進	18 移住定住相談会及び移住体験ツアーの合同開催
④その他	デジタルの活用した取組の推進	19 デジタルデバイド対策事業の共同実施
		20 eスポーツ推進事業
(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野		
①人材育成	自治体職員合同研修会の実施	21 自治体職員合同研修会の実施
	地域をけん引する人材育成	22 未来創造塾の合同開催

具体的取組とSDGsのマトリクス表

共生ビジョンに掲げる取組と関連する「SDGsの17のゴール」	貧困	飢餓	健康と福祉	教育	エネルギー クリーン	働きがい 経済成長	産業 技術革新	不平等	まちづくり	つくる責任 つかう責任	陸の豊かさ	平和と 公正	パートナ シップ
	1 貧困 POVERTY	2 飢餓 ZERO HUNGER	3 健康と福祉 GOOD HEALTH AND WELL-BEING	4 教育 QUALITY EDUCATION	7 エネルギー クリーン CLEAN ENERGY	8 働きがい 経済成長 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH	9 産業 技術革新 INDUSTRIAL INNOVATION AND INFRASTRUCTURE	10 不平等 INEQUALITY	11 まちづくり SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES	12 つくる責任 つかう責任 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION	15 陸の豊かさ LIFE ON LAND	16 平和と 公正 PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS	17 パートナ シップ PARTNERSHIPS FOR GOAL ACHIEVEMENT
(1) 生活機能の強化に係る政策分野													
生活習慣病重症化予防啓発事業			○										○
合同研修会を通じた医療機関との連携強化			○										○
保育所広域入所の連携強化			○			○			○				○
合同会議の開催及び子育て支援施設の相互利用の強化			○						○				○
放課後児童支援員への研修会の実施			○	○									○
地域包括ケアシステム構築に向けた市町連携事業			○						○			○	○
買い物・見守り等支援事業			○					○				○	○
図書館等の相互利用事業				○							○		○
圏域文化財の普及活用事業				○					○				○
新規就農者への支援		○				○					○		○
圏域地場企業の就労支援事業	○			○		○	○						○
インバウンド誘客促進に向けた受入対策事業						○							○
環境保全に向けた巡回、啓発運動					○					○			○
伝染病発生時における対策連携			○										○
(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野													
路線バス維持のための運行補助事業			○						○				○
地域公共交通の利用促進と利便性向上			○						○				○
地域産物の認知度向上及び消費拡大						○				○	○		○
移住定住相談会及び移住体験ツアーの合同開催									○				○
デジタルデバイド対策事業の共同実施	○		○				○	○				○	○
eスポーツ推進事業				○			○		○				○
(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野													
自治体職員合同研修会の実施				○					○				○
未来創造塾の合同開催				○			○		○				○

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

①医療：生活習慣病等の予防と地域医療の連携

(形成協定の内容)

取組内容	生活習慣病等の予防に向けて、関係医療機関と連携した普及啓発を図り、特定健診体制の強化に取り組む。
------	--

事業名	1 生活習慣病重症化予防啓発事業					関係市町
事業概要	生活習慣病とは、片寄った食事、運動不足、飲酒などの生活習慣が要因となり、がんや心臓病、脳卒中といった日本人の死因の上位を占める疾病を引き起こす要因となるものである。 適切な食事と運動を心がけ健康的な生活を維持出来るよう、住民が取り組みやすい減塩等啓発ポスターを作成し、商工団体や医療機関等の関係機関を通じて店頭や窓口での掲示を依頼する。					山鹿市 和水町
効果	住民が、食生活や生活習慣の見直しの必要性を理解し、健康課題の改善に取り組むことで、生活習慣病の発症予防及び重症化予防を図る。					
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	109	109	109	109	109	545
	山鹿市	95	95	95	95	475
和水町	14	14	14	14	14	70
補助制度等						
関係市町の 役割分担	山鹿市：減塩等のポスターを作成し、山鹿市商工団体や医療機関との調整を行い、各店頭への掲示を依頼 和水町：和水町商工団体や医療機関等との調整を行い、各店頭への掲示を依頼					
実施期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	合同説明会・研修会の開催	—————▶				

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	ポスター掲示箇所数	110 (令和5年度)	200 (令和10年度)

事業名	2 合同研修会を通じた医療機関との連携強化						関係市町
事業概要	事業説明会を合同研修の形で行う。研修では「糖尿病連携手帳の活用方法」や「予防接種の過誤防止」等をテーマとして取り上げ、行政と医療との連携強化を図る。						山鹿市 和水町
効果	研修会を合同で開催することで、圏域内医療機関と行政が連携した各種事業等の体制の強化が期待できる。 また、両市町の情報共有、医療機関からの意見を事業に反映させる貴重な機会となる。						
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計	
	9	9	9	9	9	45	
	山鹿市	9	9	9	9	45	
和水町	0	0	0	0	0	0	
補助制度等							
関係市町の 役割分担	山鹿市：開催の日程調整、開催通知文の作成及び送付、説明会の資料作成等 和水町：説明会の資料作成						
実施 期間	取組内容		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	合同研修会の開催（予防接種事業）		→				
	合同研修会の開催（特定健診・健康増進事業）		→				

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	特定健診受診率	山鹿市：42.8% 和水町：66.0% (令和4年度)	山鹿市：55%以上 和水町：66.0% (令和10年度)
	合同研修会等への 医療機関の参加率	65% (令和5年度)	85% (令和10年度)

②福祉：子育て環境の充実

(形成協定の内容)

取組内容	安心して子育てできる環境を創るために子育て支援事業について広域利用の推進を図る。 また、子育て関係の人材育成及びネットワークの構築に取り組む。
------	--

事業名	3 保育所広域入所の連携強化					関係市町
事業概要	行政区域を越えた保育所広域入所について、両市町が情報を共有し、圏域在住乳幼児が相互に広域入所できるよう円滑化を図る。					山鹿市 和水町
効果	日常生活圏の拡大や住民ニーズの多様化の対応として、保育所の相互利用を円滑にすることで、圏域の子育て支援の取組が強化される。					
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	0	0	0	0	0
	山鹿市	0	0	0	0	0
和水町	0	0	0	0	0	0
補助制度等						
関係市町の 役割分担	山鹿市：広域入所の依頼があった場合、市内の関係施設との調整を行い、広域入所がスムーズに進むよう連携する。 和水町：広域入所の依頼があった場合、町内の関係施設との調整を行い、広域入所がスムーズに進むよう連携する。					
実施期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	広域入所に係る情報共有	—————▶				
	広域入所の実施	—————▶				

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	圏域内における広域入所の相互受入	実施	実施

事業名	4 合同会議の開催及び子育て支援施設の相互利用の強化					関係市町
事業概要	両市町の子育て支援センター職員が、両市町の施設の現状や必要な範囲で利用者と子供の生活環境を含めた情報交換を行うとともに、支援に必要なスキル習得のための合同会議(勉強会)を開催する。また、子育て支援の充実を図るため、両市町の施設のイベントへの参加を可能とし相互利用を強化する。					山鹿市 和水町
効果	両市町の子育て支援センターで実施している企画や取組、課題等について情報を共有することで、新たな気づきや問題解決策が見つかり、職員の意欲や資質の向上も期待され、受け入れ態勢の強化につながる。 また、少子化の中、両市町の子育て中の親子が施設を相互利用することにより、子育てに関する交流等の機会が促進され、安心して子育てができる環境整備につながる。					
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	30	47	47	47	47	218
	山鹿市	30	30	30	30	150
和水町	0	17	17	17	17	68
補助制度等						
関係市町の 役割分担	山鹿市：合同会議の計画の作成及び開催を主導する。 和水町の子育て親子に対し、山鹿市で開催するイベントの周知を行う。 和水町：計画作成に協力し参加する。 山鹿市の子育て親子に対し、和水町で開催するイベントの周知を行う。					
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	合同会議の実施	—————▶				
	合同イベントの開催		—————▶			

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	合同会議の実施	2回 (令和5年度)	4回 (各年度)
	合同イベントの 開催	—	4回 (令和10年度)

事業名	5 放課後児童支援員研修						関係市町
事業概要	放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）において、支援を必要とする児童が年々増加しており、放課後児童支援員にはこれに対応するスキルが求められている。 そのため、特別な支援を要する児童への対応に関する研修を定期的実施し、スキルアップを図る。						山鹿市 和水町
効果	放課後児童支援員研修により、支援員のスキルアップで、より安心して子どもを預かる環境を整え、保護者の仕事と育児の両立を支援する。						
概算事業費 （千円）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計	
	75	75	75	75	75	375	
	山鹿市	75	75	75	75	375	
和水町	0	0	0	0	0	0	
補助制度等							
関係市町の 役割分担	山鹿市：鹿本療育センターと連携して年間計画を作成し、研修を実施する。 和水町：計画を支援員に周知し、研修への参加を促す。						
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	放課後児童支援員研修会	—————▶					

重要業績評価指数 （K P I）	指標	現状値 （調査時点）	目標値 （達成年度）
	研修会の参加者数	30人/回 （令和5年度）	30人/回 （各年度）

②福祉：地域包括ケアの充実

(形成協定の内容)

取組内容	高齢者等が地域で安心して暮らすことができるために、各種研修会等を通じケアマネジメントの質の向上を図るとともに、見守り支援に取り組む。
------	--

事業名	6 地域包括ケアシステム構築に向けた市町連携事業					関係市町
事業概要	高齢者施策及び認知症対策の向上並びに医療介護連携体制整備を促進するため、山鹿市が行う認知症フォーラムをはじめとした研修会等に和水町も参加し、情報共有及び意見交換を行い、ケアマネジメントの質の向上に取り組む。					山鹿市 和水町
効果	山鹿市が行う研修会に和水町が参加することで、医療介護連携や、社会資源の情報を共有し、高齢者支援の充実につながる。					
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	455	455	455	455	455	2,275
	山鹿市	455	455	455	455	2,275
和水町	0	0	0	0	0	0
補助制度等						
関係市町の 役割分担	山鹿市：山鹿市が実施する研修会等へ和水町を案内 和水町：山鹿市が実施する研修会等への参画					
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	情報交換会に参加する人数	—————▶				

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	情報交換会に参加する 人数	—	100人 (令和10年度)

事業名	7 買い物・見守り等支援事業						関係市町
事業概要	高齢者施策の向上の一つとして、高齢者等が地域で安心して暮らすための「買い物・見守り等支援事業」を実施する事業者に対し支援を行う。						山鹿市 和水町
効果	移動販売事業者に補助をすることにより、移動販売ルート of 維持・拡大につなげ、高齢者等が地域で安心して暮らすことにつながる。						
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計	
	2,515	2,515	2,515	2,515	3,773	13,833	
	山鹿市	1,435	1,435	1,435	1,435	2,153	7,893
和水町	1,080	1,080	1,080	1,080	1,620	5,940	
補助制度等	山鹿市買い物・見守り等支援事業補助金						
関係市町の 役割分担	山鹿市：両市町で実施する移動販売事業者への補助 和水町：山鹿市が行う補助に対し、和水町相当分を負担						
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	移動販売事業者への支援	—————▶					

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	移動販売事業者への支援	2社 (令和5年度)	3社 (令和10年度)

③教育及び文化：図書館等の相互利用

(形成協定の内容)

取組内容	図書館等の相互利用を推進し、住民へのサービス向上に取り組む
------	-------------------------------

事業名	8 図書館等の相互利用事業						関係市町
事業概要	<p>圏域の住民が、両市町の図書館（図書室）を利用できるように環境を整備し、気軽に本に親しむことができる場を提供する。</p> <p>また、両市町の図書館及び図書室で図書の貸し出しはもちろんのこと、山鹿市でのお話会や上映会、読書フェスタなどイベントを周知し、気軽に本に親しみ相互利用ができる場を提供する。</p>						山鹿市 和水町
効果	<p>図書貸出し等のサービスを向上させることで両市町の図書館（図書室）利用者の増加が見込まれ、活気ある施設づくりにつながる。</p> <p>山鹿市が行っているお話会や上映会、読書フェスタなどイベント情報の周知で和水町住民、さらには親子が参加することで図書館が子育てのコミュニティの場として子育て環境が充実し、圏域利用の登録者数増加につながる。</p>						
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計	
	81,170	81,170	81,170	81,170	81,170	405,850	
	山鹿市	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	400,000
和水町	1,170	1,170	1,170	1,170	1,170	5,850	
補助制度等							
関係市町の 役割分担	<p>山鹿市：図書館（図書室）の環境整備。図書館・図書室の利用推進。イベント情報の周知。子育て環境の推進。</p> <p>和水町：図書室の環境整備。図書館・図書室の利用推進。イベント情報の周知。子育て環境の推進。</p>						
実施期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	両市町の図書館（図書室）の相互利用	—————▶					

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
		図書館等の圏域利用の登録者数	430人 (令和4年度)

③教育及び文化：文化財を活用した普及啓発

(形成協定の内容)

取組内容	文化財の普及啓発と活用促進を図り、郷土愛の醸成や交流人口の増加に取り組む。
------	---------------------------------------

事業名	9 圏域文化財を活用した普及啓発事業					関係市町
事業概要	圏域である菊池川中流域には、チブサン古墳や江田船山古墳をはじめ、多種多様な文化財が分布する。これらの古墳をテーマとしたオリジナルグッズの開発など、文化財を活用することで、両自治体の知名度向上を図る。					山鹿市 和水町
効果	圏域内に所在する古墳をはじめとした文化財について、歴史愛好家以外にもその魅力が伝わる形態での活用を工夫することにより、圏域住民の郷土愛意識の醸成や交流人口増大を図ることができる。					
概算事業費 (千円)	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	計
	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	7,000
	山鹿市	1,180	1,180	1,180	1,180	5,900
和水町	220	220	220	220	220	1,100
補助制度等						
関係市町の 役割分担	山鹿市：文化財の活用方法について、両自治体の特色が発揮できるような手法を検討し、活用を実施する。 和水町：山鹿市と一体となって活用方法を検討し、実施する。					
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	両自治体関係者検討会	—————▶				
	開発したグッズ販売など活用 の実施		—————▶			

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	文化財の活用方 策件数	—	4件 (令和10年度)

④産業振興：新規就農者への支援

(形成協定の内容)

取組内容	新規就農者への育成支援に取り組む。
------	-------------------

事業名	10 新規就農者への支援					関係市町
事業概要	<p>基幹的農業従事者は年々減少、かつ高齢化しており、新規就農者は依然として充足しない状況にある。</p> <p>このことから、新規就農者の経営確立に向けた支援として、くまもと農業アカデミーの出前アカデミー講座を活用した合同研修会等の実施により、就農後の不安解消や安定的な農業経営確立のためのノウハウ修得等を推進する。</p>					山鹿市 和水町
効果	両市町合同で合同研修・意見交換等を実施することにより、より幅広い情報交換・情報共有につながり、新規就農者それぞれの営農における問題点や不安の解消、営農上の知識や技能の修得等、新規就農者の早期の安定経営が見込まれる。					
概算事業費 (千円)	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	計
	0	0	0	0	0	0
	山鹿市	0	0	0	0	0
和水町	0	0	0	0	0	0
補助制度等						
関係市町の 役割分担	<p>山鹿市：合同研修会の企画・運営及び対象者への情報提供</p> <p>和水町：合同研修会の運営協力及び対象者への情報提供</p>					
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10 年度
	新規就農者の合同研修会の実施	—————▶				

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	合同研修会の参加者数	20人 (令和5年度)	35人 (令和10年度)

④産業振興：地場企業への就労支援

(形成協定の内容)

取組内容	就職希望者へ地場企業を知る機会を提供し、就業支援の推進に取り組む。
------	-----------------------------------

事業名	11 圏域地場企業の就労支援事業					関係市町
事業概要	圏域企業各社が会場内に個別ブースを設置し、高校1・2年生及び学校関係者を対象に、企業概要や事業内容、待遇などの説明を行うだけでなく、生徒が企業側に質問するなど、就職を考えるうえで必要な情報交換の機会を創出する。					山鹿市 和水町
効果	圏域企業の取り組みや魅力を従業員から直接伝えることで、高校生の就職への意識を高め、就職先を選択する際の参考にしてもらうとともに、企業側も認知度向上や人材確保につながり、将来的には定住促進の効果も期待できる。					
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	40,000
	山鹿市	6,400	6,400	6,400	6,400	32,000
和水町	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	8,000
補助制度等						
関係市町の役割分担	山鹿市：市内企業及び高等学校等への周知及び参加要請、並びに企業ガイダンスの企画・運営を行う 和水町：町内企業への周知及び玉名地域の高等学校等への参加依頼、並びに企業ガイダンス運営の協力					
実施期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	企業ガイダンスの実施	—————▶				

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	高校生の参加数	300名 (令和4年度)	400名 (令和10年度)
	企業の参加数	40社 (令和4年度)	80社 (令和10年度)

④産業振興：観光における受入態勢の強化

(形成協定の内容)

取組内容	インバウンド等をターゲットとした受入態勢の強化に取り組む。
------	-------------------------------

事業名	12 インバウンド誘客促進に向けた受入対策事業					関係市町
事業概要	TSMC進出により、多くの台湾人駐在員やその家族が熊本市や菊陽町等に居住しており、その効果を両市町に取り込むため、誘客に向けた地域課題を解決し、受入態勢の強化を図る。					山鹿市 和水町
効果	両市町における受入課題を解決することで、圏域の観光入込客数、宿泊者数、観光消費額等の増加が期待できる。					
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	5,478	6,150	6,150	4,010	4,010	25,798
	山鹿市	3,835	4,305	4,305	2,807	2,807
和水町	1,643	1,845	1,845	1,203	1,203	7,739
補助制度等						
関係市町の 役割分担	山鹿市：和水町と連携して事業の調整及び窓口としての機能を担う。 和水町：山鹿市と連携・協力して事業を実施する。					
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	二次交通対策	→				
	受入態勢支援	→				
	パンフレット等制作	→				

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	来訪者満足度	—	満足計80%以上 (令和10年度)

⑤環境：環境保全活動の推進

(形成協定の内容)

取組内容	清掃活動や環境保全のための啓発活動を通じ、環境保全意識の醸成を図る。
------	------------------------------------

事業名	13 環境保全に向けた巡回、啓発運動						関係市町
事業概要	<p>小学生を対象とした「環境にやさしい生活習慣や取り組みを掲載したパンフレット」を作成し、学校や家庭での実践を促す。</p> <p>実際に取り組んだ小学生には、「参加賞」として勉強などに使用できる環境配慮品（鉛筆など）を配布する。</p> <p>また、市町境界につながる幹線道路の不法投棄パトロールや清掃活動を市町担当者等で実施する。</p>						山鹿市 和水町
効果	<p>小学生に学校や家庭で環境保全活動に取り組ませることで、友人や家族を巻き込んで環境意識の高揚を図り、一人ひとりに環境保全活動の大切さを認識させる。さらに、環境に配慮した参加賞を配布することで、より環境保全活動に取り組む意欲の向上や動機づけを図る。</p> <p>また、両市町担当者等により不法投棄パトロールや清掃活動を行うことで、景観の保全を図る。</p>						
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計	
	156	156	156	156	156	780	
	山鹿市	132	132	132	132	660	
和水町	24	24	24	24	24	120	
補助制度等							
関係市町の役割分担	<p>山鹿市：和水町と連携し、事業の実施及び費用の一部を負担する。</p> <p>和水町：山鹿市と連携し、事業の実施及び費用の一部を負担する。</p>						
実施期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	パンフレット等の選定	→					
	児童への配布・実施者に参加賞配布	→					
	不法投棄パトロール及び清掃活動	→					

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	児童の環境保全活動への取り組み	—	70% (各年度)
	不法投棄パトロール及び清掃活動	実施	実施

⑥その他：伝染病等への対応における組織体制の構築

(形成協定の内容)

取組内容	家畜伝染病等の早期収束及びまん延防止に向けて、伝染病防疫体制の構築を図る。
------	---------------------------------------

事業名	14 伝染病発生時における対策連携					関係市町
事業概要	悪性家畜伝染病が発生した場合における当該家畜伝染病の早期清浄化及び未発生地域へのまん延防止を図る目的で、まずは隣接畜舎等についての情報の共有を図る。あわせて、日々変化する畜舎環境に対応するため、合同の情報交換会を継続して実施する。					山鹿市 和水町
効果	実際に伝染病が発生した場合に、初動体制が確立されることで、混乱を減少し、発生からのまん延を最小限にとどめることができる。					
概算事業費 (千円)	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	計
	0	0	0	0	0	0
	山鹿市	0	0	0	0	0
和水町	0	0	0	0	0	0
補助制度等						
関係市町の 役割分担	山鹿市：発生時を想定した対応等について関係機関との協議。発生時には和水町と情報を共有し、初動体制を確立する。 和水町：発生時を想定した対応等について関係機関との協議。発生時には山鹿市と情報共有し、初動体制を確立する。					
実施期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	合同情報交換会	—————▶				

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	合同情報交換会の参加者数	年間4人 (令和5年度)	延べ20人 (令和10年度)

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

①地域公共交通：公共交通の利便性向上及び活性化

(形成協定の内容)

取組内容	公共交通の利便性向上及び活性化を図る。
------	---------------------

事業名	15 路線バス維持のための運行補助事業						関係市町
事業概要	和水町を経由し、山鹿市と玉名市、南関町を結ぶ広域路線（産交バス山鹿・玉名線／山鹿・南関線）の路線バス等の公共交通を維持・確保するため、運行事業者に対し運行費等の一部を補助する。						山鹿市 和水町
効果	運行事業者に対し運行費の一部を補助することで、バス路線が維持・確保され、住民生活の利便性が保たれる。						
概算事業費 (千円)	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	計	
	62,438	62,438	62,438	62,438	62,438	312,190	
	山鹿市	33,689	33,689	33,689	33,689	168,445	
和水町	28,749	28,749	28,749	28,749	28,749	143,745	
補助制度等	熊本県生活交通維持・活性化総合交付金 市町負担額への特別交付税措置						
関係市町の 役割分担	山鹿市：バス路線の維持・確保のため、乗合バス事業者に補助金を支出する。 和水町：バス路線の維持・確保のため、乗合バス事業者に補助金を支出する。						
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10 年度	
	事業実施（補助金支出）	—————▶					

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	当該路線の系統数	5 系統 (令和 5 年度)	5 系統 (令和 10 年度)

事業名	16 地域公共交通の利用促進と利便性向上					関係市町
事業概要	<p>誰もが分かりやすく安心して地域公共交通を利用してもらうことを目的に、両市町及び周辺市町も含めた路線バスなどの情報をまとめた地域公共交通マップを作成し、地域公共交通の利用促進を図る。また、乗合タクシーについては、市町界を超えた乗り入れなど利便性の向上を図る。</p> <p>さらに、路線バスに対する関心を高めてもらうことを目的に、小学生を対象にバスの乗り方教室も実施する。</p>					山鹿市 和水町
効果	<p>利用しやすい環境を整備し、地域公共交通マップを作成することで、地域公共交通の利用者増加が期待できる。</p> <p>また、小学生を対象にバスの乗り方教室を実施することにより、保護者をはじめとする家族との外出機会を創出することができる。</p>					
概算事業費 (千円)	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	計
	4,494	0	0	0	0	4,494
	山鹿市	3,723	0	0	0	3,723
和水町	771	0	0	0	0	771
補助制度等						
関係市町の 役割分担	<p>山鹿市：和水町と連携して事業の調整及び窓口としての機能を担う。</p> <p>和水町：山鹿市と連携・協力して事業を実施する。</p>					
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10 年度
	地域公共交通マップの作成	→				
	バスの乗り方教室の開催	→	→	→	→	→
	乗合タクシーの乗り入れ実施	→	→	→	→	→

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	バスの乗り方教室の回数	—	4回 (令和10年度)

②地産地消：地域産物の認知度向上及び地産地消の推進

(形成協定の内容)

取組内容	地域産物の販売促進等による認知度向上及び消費拡大を図る。
------	------------------------------

事業名	17 地域産物の認知度向上及び消費拡大						関係市町
事業概要	山鹿市と和水町は「タケノコ」の産地であり、両市町で収穫した「タケノコ」を活用して開発した商品の販売促進を各市町の8物産館と連携して実施する。また、西日本一の生産量を誇る「和栗」の認知度向上のための取組を地域の飲食店等を巻き込みながら実施する。これらの取組により、地域の核となるよう物産館振興を推進する。						山鹿市 和水町
効果	「タケノコ」と「和栗」の産地であるという共通の地域産物を、山鹿市と和水町が連携して販売促進を図ることで、認知度向上と消費拡大が期待できる。また、物産館の誘客が増え物産館の振興が期待できる。 また、「和栗」等の地域産物の振興を図ることで消費拡大を進めることができる。						
概算事業費 (千円)	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	計	
	2,708	2,700	2,700	2,700	2,700	13,508	
	山鹿市	2,302	2,300	2,300	2,300	2,300	11,502
和水町	406	400	400	400	400	2,006	
補助制度等							
関係市町の 役割分担	山鹿市：和水町及び圏域内の物産館と連携し、商品化した物産についての販売促進を行うとともに、栗の消費拡大のため飲食店等と連携した取組を推進する。 和水町：山鹿市及び圏域内の物産館と連携し、商品化した物産についての販売促進を行うとともに、栗の消費拡大のため飲食店等と連携した取組を推進する。						
実施期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10 年度	
	両市町担当課又は物産館合同検討会	→					
	8 物産館でのタケノコ商品販売及びインターネット販売	→					
	「和栗」等地域産物の消費拡大の検討会と販売	→					

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	認知度向上と消費拡大を図る取組数	1 (令和5年度)	2 (令和10年度)

③住民との交流・移住の促進：移住定住の促進

(形成協定の内容)

取組内容	都市圏をターゲットとした相談会及び体験ツアー等を実施し圏域への移住・定住の促進を図る。
------	---

事業名	18 移住定住相談会及び移住体験ツアーの合同開催					関係市町
事業概要	都市圏の20代～40代の新しい暮らし方や働き方に興味がある人、自然豊かな所で子育てをしたい人などを対象とした移住定住相談会を合同で開催し、移住後の支援制度や既に移住している人の暮らしを紹介する。また、合同の移住定住相談会の参加者を対象に、移住後の子育てや仕事に重点を置いた体験ツアーを開催し、子育て関連施設の見学や農業体験等を行う。					山鹿市 和水町
効果	若い世代（子育て世代）を対象とした移住定住相談会を合同開催することで、両市町の費用の負担軽減が図られるほか、新しい場所での子育てや仕事に不安を抱える移住希望者に有益な情報を効率的・効果的に紹介でき、企業等が求める人材の確保にも繋がる。 また、移住定住相談会の参加者が本圏域を訪れ、移住体験ツアーを通じて圏域の子育て環境や仕事等を体験することで移住後の姿をイメージしやすくなる。					
概算事業費 (千円)	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	計
	1,000	1,000	2,000	2,000	2,000	8,000
	山鹿市	850	850	1,700	1,700	1,700
和水町	150	150	300	300	300	1,200
補助制度等						
関係市町の 役割分担	山鹿市：事業を企画し、和水町や受入団体等と連携して移住定住相談会及び移住体験ツアーを開催する。 和水町：山鹿市や受入団体等と連携して移住定住相談会及び移住体験ツアーを開催する。					
実施期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	合同相談会の準備・調査	—————→				
	合同移住体験ツアーの準備・開催			—————→		

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	合同相談会を通じた相談件数	—	20組 (令和10年度)
	合同移住体験ツアーを通じた参加者数	—	10組 (令和10年度)

④その他：デジタルを活用した取組の推進

(形成協定の内容)

取組内容	デジタルデバインド対策やeスポーツを活用した取組等、デジタルを活用した取組の推進を図る。
------	--

事業名	19 デジタルデバインド対策事業の共同実施					関係市町
事業概要	行政サービスのデジタル化推進を図るためには、情報通信技術を活用できない人を中心とした住民のデジタルデバインド（情報格差）の解消が課題であるため、対策事業を共同で実施する。 令和6年度は山鹿市役所と和水町役場等及び地域内の商業施設を巡回し、スマートフォンの操作方法や活用方法を教えるスマホ教室を実施する。令和6年度の効果を検証した上で、令和7年度以降についても共同で事業を実施していく。					山鹿市 和水町
効果	スマートフォンをはじめとするデジタル技術への苦手意識の低減が図られ、デジタルデバインドの解消への効果が期待されるほか、行政サービスのデジタル化を推進する基盤の強化につながる。また、両市町が連携して事業に取り組むことで、住民が広域的に参加できるようになるため、住民の利便性向上にもつながる。					
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	9,300
	山鹿市	1,488	1,488	1,488	1,488	7,440
和水町	372	372	372	372	372	1,860
補助制度等						
関係市町の 役割分担	山鹿市：事業の調整及び総括窓口としての機能を担い、和水町と共同で事業を実施する。 和水町：山鹿市と共同で事業を実施する。					
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	デジタルデバインド対策事業の 共同実施	—————▶				

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	参加率	-	80% (令和10年度)
	利用者満足度	-	80% (令和10年度)

事業名	20 e スポーツ推進事業						関係市町
事業概要	年齢や障害の有無に左右されない e スポーツを高齢者施設や地域の憩いの場等で実施することで、e スポーツの振興を図る。 また、他地域や多世代とオンライン対戦を行うことで、交流の促進に繋げる。						山鹿市 和水町
効果	人口減少傾向にある一方で、65 歳以上の高齢者人口は増加している。また、全国や熊本県と比較して高齢化が進展しており、認知症の発症、要介護等認定者の増加が懸念されている。e スポーツを行うことで、健康寿命の延伸、認知症予防、外出支援を促しつつ、住民同士が交流することにより地域の繋がりを強化することができる。						
概算事業費 (千円)	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	計	
	3,636	3,636	3,636	3,636	3,636	18,180	
	山鹿市	2,816	2,816	2,816	2,816	14,080	
	和水町	820	820	820	820	4,100	
補助制度等							
関係市町の 役割分担	山鹿市：和水町や社会福祉協議会と連携して、情報共有を図り、e スポーツの推進を図る。 和水町：山鹿市や社会福祉協議会と連携して、情報共有を図り、e スポーツの推進を図る。						
実施期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10 年度	
	e スポーツ体験会を実施	—————▶					
	e スポーツ大会への参加		—————▶				
	ボランティア人材の育成		—————▶				

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	健康寿命の延伸や認知症予防に効果があったと感じた割合 (%)	—	80% (各年度)
	e スポーツを楽しみ、生活の中に取り入れたいと感じた人の割合 (%)	—	80% (各年度)

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

①人材育成：自治体職員合同研修会の実施

(形成協定の内容)

取組内容	圏域内自治体職員の資質向上を図るため、合同での職員研修会を行う。
------	----------------------------------

事業名	21 自治体職員合同研修会の実施						関係市町
事業概要	<p>地方自治の振興及び両市町職員に対する高度で専門的な知識を習得することができる研修を開催する。</p> <p>地方自治体職員には自律的かつ戦略的に地域における事務を遂行する能力が求められているため、両市町のニーズに対応した研修テーマのものを実施する。</p>						山鹿市 和水町
効果	職員の資質向上や職員間の交流が図れることで、本共生ビジョンの実施やその他の業務遂行の際に市町間連携や情報交換がスムーズに取りやすくなるほか、圏域の行政マネジメント力の強化につながるができる。						
概算事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計	
	400	400	400	400	400	2,000	
	山鹿市	340	340	340	340	1,700	
和水町	60	60	60	60	60	300	
補助制度等							
関係市町の 役割分担	山鹿市：両市町の職員等が参加する合同研修会を開催する。						
	和水町：職員等を合同研修会に参加させる。						
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	合同職員研修会の実施	—————▶					

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	研修受講者の目標達成度(満足度)5段階評価の4段階以上70%	—	70%以上

①人材育成：地域をけん引する人材育成

(形成協定の内容)

取組内容	民間活力による地域活性化のため、大学等と連携し、地域をけん引する人材育成を図る。
------	--

事業名	22 未来創造塾の合同開催						関係市町
事業概要	自治体が熊本大学と連携し、地域の若手企業経営者等が地域資源を活用しながら、地域課題をビジネスで解決することを目的に、広義の第二創業として CSV、コミュニティビジネスの稼働を支援する人材育成塾を開催するもの。 地域を超えて人材育成を行うことで、より持続的な運営と事業者間の効果的な連携を目指す。						山鹿市 和水町
効果	人口減少が進む中、行政規模も縮小を余儀なくされている状況において、地域課題をビジネスチャンスとして捉え積極的に関与する民間事業者を育成・支援することで、民間活力による地域活性化を狙うことができる。 また、両市町が合同で開催することで、より多様な事業者の参加や連携が想定でき、より効率的に目的の達成を図ることができる。						
概算事業費 (千円)	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	計	
	0	1,800	1,800	1,800	1,800	7,200	
	山鹿市	0	1,500	1,500	1,500	6,000	
和水町	0	300	300	300	300	1,200	
補助制度等							
関係市町の 役割分担	山鹿市：カリキュラムの構築、塾生募集、塾の運営、山鹿市からの参加者のフォローアップ 和水町：塾生募集、塾の運営、和水町からの参加者のフォローアップ						
実施 期間	取組内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	合同開催の実施		→				
	合同開催に向けた協議	→					

重要業績評価指数 (KPI)	指標	現状値 (調査時点)	目標値 (達成年度)
	塾生参加率	—	80% (各年度)
	事業実施率	—	50% (令和10年度)

第2次山鹿市・和水町定住自立圏共生ビジョン

発 行：山鹿市総務部総合戦略課

住 所：〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿 987-3

T E L：0968-43-1112

F A X：0968-44-0373

e-mail：sosen@city.yamaga.kumamoto.jp

U R L：https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/